

第3回 野々市市都市計画マスタープラン策定委員会 議事要旨

【日 時】 令和 4 年3月28日（月） 午前10時～11時30分

【場 所】 野々市市情報交流館カメラア2階 ホール椿

【出席委員】（○印：委員長）

○ 金沢工業大学	教 授	蜂谷 俊雄
石川県立大学	教 授	一恩 英二
野々市市農業委員会	会 長	佛田 利弘
野々市市女性協議会	会 長	澤村 昭子
野々市市連合町内会	会 長	藤田 雅顯
石川県土木部都市計画課 課長代理	課 参 事	高橋 雅憲
野々市市	副 市 長	山口 良

【事 務 局】

野々市市土木部	部 長	中藪 孝志
野々市市土木部都市計画課	課 長	石畝 朋宏
野々市市土木部都市計画課	課長補佐	西村 裕之
野々市市土木部都市計画課	課長補佐	本吉 信弥
野々市市土木部都市計画課	係 長	前川 和寛
野々市市土木部都市計画課	主 査	山下 泰士
野々市市土木部都市計画課	技 師	船山 晃司

株式会社国土開発センター 森川、中宮

敬称略

(1) 緑の基本計画について

- ・農地の保全・活用に関する方針が記載されているが、緑の基本計画において農業分野を積極的に位置付けるという理解でよいか。
⇒現行の緑の基本計画においては、深くまで農地に関する方針は位置づけていなかったが、近年の都市緑地法の改正により農地が緑として位置付けられたことから、今回の計画案では方針を記載している。(事務局回答)
- ・農地の保全・活用に記載されている文章は、農業分野における取り組みの核心的な部分であるため、農業振興地域整備計画との整合・連携を図る必要がある。また、計画の目標設定においても共通的なものが望ましい。目標の達成に向けた施策が必要であり、次回までに代表的な具体例を示して欲しい。
⇒農業の関係部局と整合・連携を図りながら検討を進める。目標設定についても、今後検討する。(事務局回答)
- ・地域によっては、農業振興地域において開発の要望が出ており、この問題との整合性も図る必要がある。
- ・今後人口増加が鈍化していく中で、公園の拠点設定などまちの魅力をどうするか。シンボリックな公園を計画するのか、または違う角度で想定するかなど、グリーンモデルをどのように計画するかが重要である。
- ・公園の集約・再編の方針について、なぜ公園を減らす必要があるかなど市民への丁寧な説明による合意形成が必要である。また、高齢化が進行している中で、公園の維持管理面について、どのように説明するか工夫が必要である。
⇒市民へ趣旨を丁寧に説明し、理解形成に努める。(事務局回答)
- ・計画の目標値（一人当たり都市公園面積）について、現行計画の目標値よりも低くなっているのはなぜか。金沢市や白山市、小松市と比較すると低い。もっと高い設定してもよいのではないか。
⇒現在の公園面積に目標年次までに整備が計画されている公園面積を加えた数値に目標年次における推計人口を除算している。現行計画の目標については、少し高めに設定していた経緯がある。目標年次の令和24年以降については、人口が減少することが予測されており、将来的には一人当たりの面積は増加するものと考えられる。目標値については、今後検討したい。(事務局回答)

(2) 都市計画マスタープラン（地域別構想の素案）について

【北部地域】

- ・野々市駅の駐車場の収容台数が松任駅と比較すると少ないため、松任駅を利用する人もいると考えられる。交遊舎の駐車場の利用検討も必要である。交通アクセスとして、電車やバスのみではなく、自動車の利用も含めた検討が必要である。また、西側の踏み切りの渋滞の問題があり、対策が必要である。

⇒具体的な内容については今後検討する。（事務局回答）

【東部地域】

- ・重要なのは、空き家の問題である。再整備を含めた具体的な提案が必要である。アパートへの活用など、住む人を増やす取り組みが必要である。

⇒関係部局と調整しながら今後検討する。（事務局回答）

【西部地域】

- ・特になし

【南部地域】

- ・市役所周辺の都市機能集積地区について、北側の保健センター周辺や、南側の市役所周辺は理解できるが、中間部分は集落で、河川を挟んで東側は未利用地が残っており、このような表現でよいのか検討が必要である。
- ・末松廃寺公園の南側に障害者職業能力開発校や身体障害者福祉工場があり、県内でも有数の施設である。また、明和特別支援学校もあり、障害者の方にも配慮するなど、様々な人が恩恵を受けられるような計画づくりが必要である。

⇒ご意見を参考に今度検討する。（事務局回答）

(3) その他全体を通しての意見

- ・都市計画マスタープランは、野々市市においても今後人口減少を迎える節目であり、どのように対応するか検討が必要である。各地域の目玉となるテーマをキーワードとして強く打ち出すことで市民への理解を得られるのではないか。
- ・緑の基本計画は、都市計画分野では限界があるかもしれないが、農業や教育、福祉の分野、環境問題なども含めた市のグリーンモデルの先駆けとなる計画になるため、戦略的なメッセージを強く打ち出す必要がある。

⇒各地域のテーマについては、市民に分かりやすいような特徴をだしていきたい。緑の基本計画についてもご意見を参考に市民へ明確にメッセージが伝わる計画としたい。（事務局回答）

- ・街路樹の管理について、手間がかかる。コストを抑える検討も必要である。公園も含めた維持管理について、町内会に委任することも検討が必要である。

⇒街路樹の問題については、メンテナンスをしやすい木を植えることや間隔をあけるなどの検討を

行っている。ただし、緑豊かなまちづくりを進めるためには、幹線道路にも緑が必要であると考えている。(事務局回答)

- ・現状の問題に対策をしている印象がある。現在の子どもが将来、市の中心的な役割を担うこととなるため、夢のある計画を入れないと、市民の関心が湧かないのではないかと。
- ・現在の子供たちが今後親になるため、より市へ愛着を持ってもらえるような計画がよい。
- ・新たな整備などの夢のような計画を市民へ伝えても、財政の心配などで気持ちが乗らないのではないかと。無理のない範囲で少しずつ進めていけばよい。
- ・今後の公共交通網の整備とまちづくりの整合性について検証が必要である。交通ネットワークについて、野々市市内だけではなく、近隣都市との連携が必要である。
⇒具体的な内容について今後検討したい。(事務局回答)
- ・コミュニティバスについては協定があるため近隣都市をまたげないのではないかと。
- ・公共交通協議会において、白山市と連携しながら公共交通ネットワークを検討している。また、連携中枢都市圏においても公共交通ネットワークについて協議している。北陸鉄道のバスの本数、延長は今後増加する。公共交通ネットワークの取り組みについては、今後進むものと考えている。

以上